

2021年3月期 中間決算 説明資料

2020年11月13日
日本貨物鉄道株式会社

1. 2021年3月期 中間決算
2. 2021年3月期 業績見通し
3. 主な取組みの進捗状況

1. 2021年3月期 中間決算

連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2020年3月期 中間期 実績	2021年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業収益	971	891	-80	-8.3
営業費用	908	904	-3	-0.4
営業利益	62	-13	-76	—
経常利益	59	-18	-77	—
親会社株主に帰属する 中間純利益	37	-19	-56	—

単体経営成績

営業収益	783	711	-71	-9.2
営業費用	730	733	+3	+0.5
営業利益	53	-21	-75	—
経常利益	47	-27	-74	—
中間純利益	29	-24	-54	—

- 新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷、令和2年7月豪雨、及び台風10号等の影響を受け、単体の運輸収入および子会社の利用運送事業収入が**減少**。連結営業収益は**減収**、連結営業利益・経常利益は**減益**。

1. 2021年3月期 中間決算

セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2020年3月期 中間期 実績	2021年3月期 中間期 実績	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	864	791	-72	-8.4
	営業利益	9	-65	-75	—
不動産事業	営業収益	109	99	-9	-9.0
	営業利益	52	50	-2	-4.2
その他	営業収益	53	53	+0	+0.9
	営業利益	-0	0	+0	—

(単体) 事業別状況

鉄道事業	営業収益	696	629	-67	-9.7
	営業費用	694	701	+7	+1.0
	営業利益	1	-72	-74	—
関連事業	営業収益	87	82	-4	-5.3
	営業費用	35	31	-3	-10.7
	営業利益	51	51	-0	-1.6

- 鉄道ロジスティクス事業は、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷、令和2年7月豪雨、及び台風10号等の影響を受け、単体の運輸収入および子会社の利用運送事業収入の減により**減収減益**。
- 不動産事業は、単体の分譲マンション収入（茅ヶ崎、八王子）の反動減、温浴施設収入の減、および子会社の駐車場収入の減、コンテナ複合施設の閉鎖によるテナントからの賃貸収入の減により**減収減益**。

1. 2021年3月期 中間決算

連結財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 中間期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,177	4,074	-102	流動資産 638億円 (対前期末 -68億円) 固定資産 3,436億円 (対前期末 -33億円)
負 債	3,160	3,077	-83	
純 資 産	1,016	997	-18	
自己資本比率	23.1%	23.2%	+0.1	

単体財政状態

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 中間期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	3,816	3,706	-110	流動資産 453億円 (対前期末 -79億円) 固定資産 3,252億円 (対前期末 -30億円)
負 債	3,073	2,987	-86	当期末長期債務 1,755億円 (対前期末 +142億円) ・有利子債務 854億円 (対前期末 +141億円) ・無利子債務 900億円 (対前期末 +1億円)
純 資 産	742	718	-23	

- 6月に震災・大雨対応型のコミットメントライン（貸付限度額210億円）を導入。

1. 2021年3月期 中間決算

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2020年3月期 中間期 実績	2021年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	89	-39	-129	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	-87	-196	-109	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	-62	144	+207	—
現金及び現金同等物の増減額	-60	-91	-30	—
現金及び現金同等物の期末残高	211	245	+34	16.4

単体キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2020年3月期 中間期 実績	2021年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	56	-51	-107	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	-77	-189	-112	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	-78	128	+207	—
現金及び現金同等物の増減額	-99	-111	-12	—
現金及び現金同等物の期末残高	104	145	+40	38.1

- 営業活動によるキャッシュ・フローは利益の減・法人税等支払増により流出額が増加。投資活動によるキャッシュ・フローは東京レールゲートWEST等の固定資産の取得増で流出額が増加。財務活動によるキャッシュ・フローは長期借入による流入額が増加。連結全体で現金及び現金同等物は91億円減少し、期末残高は245億円。

1. 2021年3月期 中間決算

品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2020年3月期 中間期 実績	2021年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
輸送量	14,446	12,437	-2,009	-13.9
コンテナ	10,419	8,978	-1,440	-13.8
農産品・青果物	777	720	-56	-7.2
化学工業品	947	762	-184	-19.5
化学薬品	675	582	-93	-13.9
食料工業品	1,794	1,550	-244	-13.6
紙・パルプ	1,302	987	-315	-24.2
他工業品	749	625	-123	-16.5
積合せ貨物	1,411	1,390	-21	-1.5
自動車部品	451	322	-128	-28.6
家電・情報機器	211	159	-52	-24.7
工コ関連物資	289	314	+25	+8.7
その他	1,809	1,564	-245	-13.6
車扱	4,027	3,458	-568	-14.1
石油	2,679	2,337	-341	-12.8
セメント・石灰石	653	588	-64	-9.9
車両	404	360	-44	-10.9
その他	290	171	-118	-40.8

- コンテナは、新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷、令和2年7月豪雨、及び台風10号等の影響を受け、紙パルプが国内需要の低迷で大幅減少、自動車部品が工場の稼働制限の影響を受け減少、工コ関連物資を除く全ての品目で前年を下回る。車扱は、石油が外出自粛の影響を受け減少。

1. 2021年3月期 中間決算
2. 2021年3月期 業績見通し
3. 主な取組みの進捗状況

2. 2021年3月期 業績見通し

連結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 見通し	対前年同期		参考 2020年度事業計画 (2020.3.31)
			増減	%	
営業収益	1,989	—	—	—	2,005
営業利益	100	—	—	—	110
経常利益	89	—	—	—	100
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	—	—	—	58

単体

営業収益	1,610	—	—	—	1,629
営業利益	85	—	—	—	97
経常利益	71	—	—	—	86
当期純利益	39	—	—	—	51

- 2021年3月期の業績見通しは、現時点で新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たず経済に与える影響が不透明であり、通期の業績への具体的な影響額を算定することが困難であることから、未定としています。
- 参考欄には、新型コロナウイルス感染症拡大の前に策定した、2020年3月31日発表の2020年度事業計画の収支計画を記載しております。

1. 2021年3月期 中間決算
2. 2021年3月期 業績見通し
3. 主な取組みの進捗状況

■ 総合物流企業グループへの進化：レールゲートの全国展開

レールゲートの全国展開の第一歩として、東京貨物ターミナル駅構内に湾岸エリア最大級となるマルチテナント型物流施設「東京レールゲートWEST・EAST」を建設
第3弾として「DPL札幌レールゲート」を建設（2022年5月竣工予定）



東京港国際コンテナターミナル、羽田空港、首都高湾岸線に近接した立地から、陸・海・空の物流ジャンクションとしてサプライチェーンの様々なシチュエーションにおいて活用が可能。



【東京レールゲート WEST】

竣工：2020年2月
賃貸面積：43,291㎡（約13,000坪）
階層：7階建て（倉庫は2～6階）



【東京レールゲート EAST】

竣工：2022年8月予定
賃貸面積：約144,000㎡（約43,500坪）
階層：5階建て



【DPL札幌レールゲート】

札幌貨物ターミナル駅構内（札幌市白石区）に立地する北海道内最大級のマルチテナント型物流施設
大和ハウス工業株式会社との共同事業。

竣工：2022年5月予定
延床面積：86,916㎡（約26,000坪）
階層：3階建て

■ 総合物流企業グループへの進化：貨物駅の高度利用化

貨物駅の物流結節点機能の強化により物流ネットワークの持続性・継続性を向上

■ 「駅のグランドデザイン策定」プロジェクトの第一号 東福山駅の新総合事務所（駅事務所）の完成

貨物駅の利便性や災害時の対応力の向上および職場環境の改善を図るため、将来を見据えた理想的な各貨物駅の在り方を検討する「駅のグランドデザイン策定」の第一号として完成。

- ・鉄骨造3階建て 敷地面積約1000㎡
- ・完成日 2020年9月15日
- ・主な設備 駅事務室、信号取扱所、営業所、
利用運送事業者事務所
多目的トイレ、スロープ等バリアフリー化
ハザードマップによる浸水対策



■ 新座貨物ターミナル駅構内「積替ステーション」の新設

お客様による鉄道輸送へのアクセスを広く確保することを目指し、コンテナ専用トラックの輸送に加えて、お客様が一般トラックで貨物駅に貨物を搬入し、コンテナに積替えを可能とする「積替ステーション」を、新座貨物ターミナルに新設。

- ・取扱コンテナ 12フィートコンテナ
- ・積替エリア 7エリア設置し、7個同時に積替え作業が可能
- ・利用開始日 2020年7月1日
- ・ご利用のメリット
 - ①お客様のトラックでの持ち込みのため、お客様の自社車両の有効活用が可能
 - ②長距離トラック運行を行う運送事業者様は、長距離配送貨物を鉄道利用に振替ることで、運転手様の長時間労働の緩和、働き方改革が推進
 - ③輸送量（トラックの積載率）に合わせて、コンテナ利用個数を選択可能

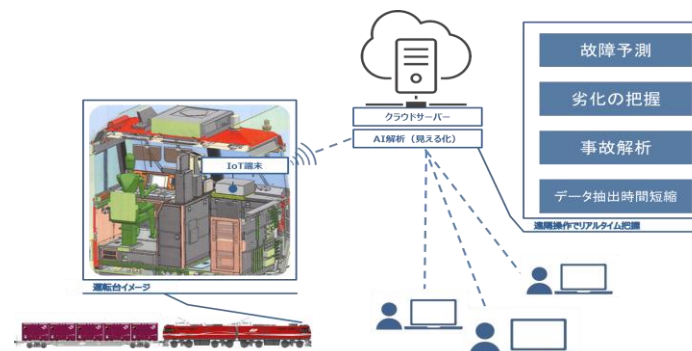


■ 新たな技術の活用

貨物駅の効率化・省力化・安全性の向上のために、新たな技術の活用を推進

■ 機関車へのリモートモニタリングサービス導入

- リアルタイムに機関車の状態を監視しそのデータを蓄積・解析することで、機関車の保守コストの削減と安定輸送の向上を図る。
- 導入時期 2020年3月に全20両に導入完了
- 導入対象 EH800形式交流機関車全20両



■ コンテナ車への手ブレーキ検知システムの導入

- 手ブレーキ*がかかったまま列車を発車させようとする、IoT端末から取得する手ブレーキ情報をもとに、運転士等へアラームを通知。
 - 導入時期 2020年度下期から順次
 - 導入対象 約7,200両ある全てのコンテナ車
- * コンテナ車を駅構内に留置するための手動により作用させるブレーキ装置



■ トラックドライバー用アプリ導入

- アプリを活用し貨物駅構内におけるトラックドライバーの待機時間削減と安全性向上及び荷役作業の省力化を図る
- 導入時期 2021年度中に試運用開始を予定。
- 導入箇所 全国6駅

函館貨物駅・仙台貨物ターミナル駅・隅田川駅・静岡貨物駅
百済貨物ターミナル駅・北九州貨物ターミナル駅



〔当社グループの事業系統図〕

お客様

鉄道貨物輸送を基軸とした総合物流サービス
 (貨物鉄道輸送) (保管、荷捌、流通加工、配送)

不動産の賃貸・分譲、ビル・物流施設の管理 他

鉄道利用運送事業者

鉄道ロジスティクス事業

- 【利用運送】
- 全国通運(株)
 - 日本フレートライナー(株)

- 【倉庫・物資別】
- 日本オイルターミナル(株)
 - 日本運輸倉庫(株)
 - 名光急送(株)
 - 東京輸送(株)
 - 関西化成品輸送(株)
 - セメントターミナル(株)

不動産事業

- 【関連・その他】
- (株)ジェアル貨物・不動産開発

建設・コンサルティング
ビル管理

その他

- 【関連・その他】
- ジェアルエフ商事(株)

日本貨物鉄道株式会社

連絡運輸

駅構内業務・荷役業務・
検修附带作業

駅施設管理

【臨海鉄道】

- 八戸臨海鉄道(株)
- 仙台臨海鉄道(株)
- 秋田臨海鉄道(株)
- 福島臨海鉄道(株)
- 鹿島臨海鉄道(株)
- 京葉臨海鉄道(株)
- 神奈川臨海鉄道(株)
- 名古屋臨海鉄道(株)
- 衣浦臨海鉄道(株)
- 水島臨海鉄道(株)

【ロジスティクス】

- (株)ジェアル貨物・北海道物流
- (株)ジェアル貨物・東北ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・北関東ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・南関東ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・新潟ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・信州ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・東海ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・北陸ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・西日本ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・中国ロジスティクス
- (株)ジェアル貨物・九州ロジスティクス

【関連・その他】

- 北九州貨物鉄道施設保有(株)

●印：連結子会社、□：持分法適用会社

リース、グループファイナンス、資材調達